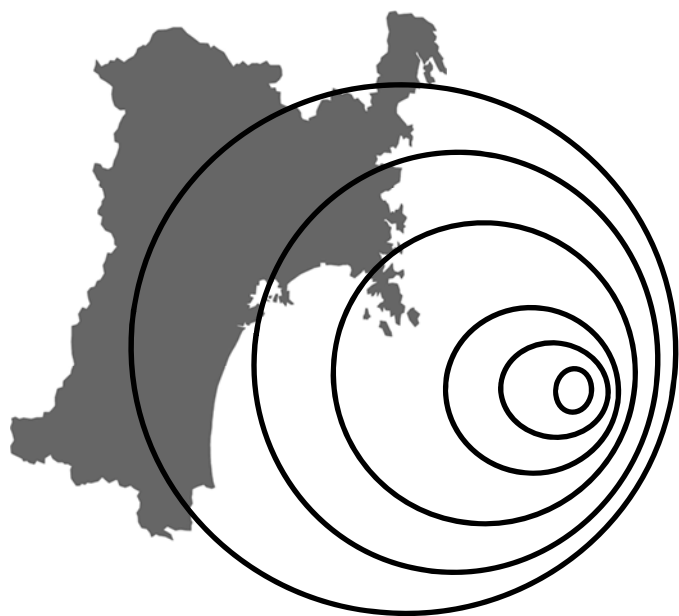


東日本大震災 2年目の記録

くみやぎの住宅・社会資本再生・復興の歩みく



平成25年3月
宮城県土木部

— 表 紙 写 真 —

（写真１）気仙沼市の本土と大島を結ぶ大島架橋の完成イメージ図

「復興のシンボル」として、平成２４年１月２７日に大島小学校で大島架橋着手式を開催し、工事設計及び用地買収に着手したところですが、平成２５年１月２３日に気仙沼市二ノ浜地区でのトンネル工事に即年着工したことから、事業中の安全と早期完成を祈念して「大島架橋事業着工式」を開催しました。

式典では、大島架橋促進既成同盟会の皆様をはじめ、本事業の推進に御尽力いただいている約５０名の関係者の皆様に鉤入れや記念撮影を行い、本工事に着手しました。

（写真２）山元町新山下駅周辺地区第２期の災害公営住宅の完成イメージ図

自力での住宅再建が困難な被災者のため、２１市町に約１万５千戸の災害公営住宅を整備することとしていますが、平成２５年３月末現在２０市町で約７千戸の整備に着手しており、仙台市、石巻市、山元町では一部が完成しました。

今後も買い取り型の整備手法の活用や公共用地の情報提供を行うほか、市町の防災集団移転促進事業や土地区画整理事業と連携を図りながら、早期に住宅の整備を進めていきます。

「東日本大震災 2年目の記録」発刊に寄せて

平成23年（2011年）3月11日午後2時46分に、モーメントマグニチュード9.0の国内観測史上最大の「平成23年東北地方太平洋沖地震」が発生しました。

4月1日に「東日本大震災」と命名されたこの大災害は、巨大地震と巨大津波による被害にとどまらず、東京電力福島第一原子力発電所の事故とその後の風評被害が加わった未曾有の複合災害でした。

さて、決して忘れてはいけない「東日本大震災」から2年が経過しました。この震災により、本県沿岸部は巨大地震津波によって跡形もなく破壊され、多くの尊い人命と財産が一瞬のうちに失われてしまいました。

本県においては、死者・行方不明者が1万1千名を超え、住家等の全壊・半壊も23万棟に及び、被害総額は9兆円余に達する甚大な被害を受けました。あらためまして、震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

あれから2年の歳月が過ぎ、職員の皆様の昼夜を分かたずの献身的なご努力と、国や都道府県などの自治体、関係機関・団体など、国内外から多くの温かいご支援により、本県の震災からの復旧・復興が一步一步着実に進んでまいりましたことに、深く感謝申し上げます。

まだまだ復興への道のりは厳しいものがありますが、これまで築き上げてきた本県の住宅・社会資本にさらに磨きをかけ、一層災害に強い県土に再構築するとともに、県土発展に向けた新たな取組についても、職員一丸となって実践していけば、きっと宮城、東北の復興が成し遂げられると信じています。

今般、編集した「東日本大震災 2年目の記録～みやぎの住宅・社会資本再生・復興の歩み～」は、「復興元年」の平成24年度にお

ける復旧・復興に向けた土木部の1年間の活動をまとめたもので、
「東日本大震災 1年の記録」の続編となっています。

この1年は、「見える復興、見せる復興」をスローガンに、復旧・復興に取り組んでまいりましたが、この記録には、国や県全体の動きと土木部の対応を示した「復旧・復興トピックス」や「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」の進捗状況と今後の取り組み、公共土木施設の復旧状況、各課・室、地方公所の住宅・社会資本再生・復興の歩み等を誌しています。

「東日本大震災」を風化させることなく、「3.11伝承・減災プロジェクト」の一環として、今後とも、「記憶」より「記録」で「永く」伝承していくために、記録誌づくりを継続して行い、国内外に発信してまいります。この記録誌が、本県のみならず、他の自治体等、関係機関・団体における今後の防災・減災対策に少しでもお役に立てばこの上なく幸いです。

最後になりましたが、平成25年9月22日に土木部は80周年を迎えます。奇しくも、昭和三陸地震により本県の三陸沿岸が津波により大きな被害を受けた昭和8年に、土木課から昇格し土木部となりました。今、私たちは東日本大震災からの復興の真っ直中にあります。平成25年度は、震災から3年目、復旧期の最終年度にあたり、復旧はもちろんのこと、再生・発展に向けて大事な年となります。

これからも、東日本大震災を乗り越え、美しいふるさと新生宮城、東北の発展に向けて、被災地の「復興加速」、被災者の「復興実感」のために、職員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、国内外からの引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

平成25年3月

宮城県土木部長 橋本 潔

目 次

第1章 東日本大震災の被害状況……………P 1

1. 人的被害……………2
2. 住家・非住家被害……………2
3. 避難所・避難者数……………2
4. ライフライン被害……………2
5. 各施設の被害額……………2
6. 公共土木施設等の被害額……………2

第2章 復旧・復興トピックス……………P 7

1. 宮城県土木部復興元年（平成24年度）カレンダー……………8
2. 国・宮城県・土木部の二年目の歩み……………10

第3章 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築……………P 23

1. 取組の役割と位置づけ……………24
2. 震災からの教訓……………27
3. 災害に強いまちづくり宮城モデルについて……………35
4. 復興まちづくりプロセスへの宮城モデルの考え方の適用……………72

第4章 東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗状況……P 79

1. 公共土木施設の災害復旧事業（県事業）……………80
2. 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築……………81

第5章 復興まちづくり事業カルテ……………P 8 9

- 1. 復興まちづくり事業カルテの概要…………… 9 0
- 2. 復興まちづくり事業カルテの公表…………… 9 0

第6章 土木部業務継続計画（BCP）……………P 1 1 9

- 1. 土木部業務継続計画（BCP）の改訂…………… 1 2 0
- 2. 主な改訂点…………… 1 2 0
- 3. 土木部業務継続計画（BCP）における情報提供…………… 1 2 1

第7章 公共土木施設の復旧状況……………P 1 2 3

- 1. 道路施設の復旧写真…………… 1 2 4
- 2. 河川・ダム・海岸保全施設の復旧写真…………… 1 3 4
- 3. 砂防・傾斜地施設の復旧写真…………… 1 4 0
- 4. 港湾施設の復旧写真…………… 1 4 2
- 5. 下水道施設の復旧写真…………… 1 4 6
- 6. 県有建築物の復旧写真…………… 1 4 8
- 7. その多施設（公園）の復旧写真…………… 1 5 0

第8章 土木部内各課室・各地方公所 2年目の記録……P 1 5 3

- 1. 土木総務課…………… 1 5 4
- 2. 事業管理課…………… 1 5 9
- 3. 用地課…………… 1 6 5
- 4. 道路課…………… 1 6 8
- 5. 河川課…………… 1 7 2
- 6. 防災砂防課…………… 1 7 6
- 7. 港湾課…………… 1 8 2
- 8. 空港臨空地域課…………… 1 8 7
- 9. 都市計画課…………… 1 9 3
- 10. 復興まちづくり推進室…………… 2 0 1

1 1. 下水道課.....	2 0 7
1 2. 建築宅地課	2 1 2
1 3. 住宅課	2 1 6
1 4. 復興住宅整備室	2 2 2
1 5. 営繕課・設備課	2 2 8
1 6. 大河原土木事務所.....	2 3 4
1 7. 仙台土木事務所	2 4 0
1 8. 北部土木事務所	2 5 6
1 9. 北部土木事務所栗原地域事務所.....	2 6 2
2 0. 東部土木事務所	2 6 7
2 1. 東部土木事務所登米地域事務所.....	2 7 4
2 2. 気仙沼土木事務所.....	2 8 0
2 3. 仙台塩釜港湾事務所	2 8 9
2 4. 石巻港湾事務所	2 9 3
2 5. 中南部下水道事務所	2 9 9
2 6. 東部下水道事務所.....	3 0 5
2 7. 仙台地方ダム総合事務所	3 1 1
2 8. 大崎地方ダム総合事務所	3 1 4
2 9. 栗原地方ダム総合事務所	3 2 0
3 0. 仙台港背後地土地区画整理事務所	3 2 4

<空 白>